



# 帰国生の学校選び A to Z

●第48回●

## 公立中学校を超える私立中学校の 魅力とは？

新年度が始まりました。日本では小学校卒業生の約90%が地元の公立中学校に入学します。ただし、帰国生では、約30%が私立中学校に進学します。

その理由の一つは英語教育が充実していることです。英語圏からの帰国生にとって日本の中学校の英語には物足りなさを感じます。私立中学校では、英語力のある帰国生には別の授業を行う「取り出し授業」を取り入れたり、国内生も含め、海外留学も視野に入れたハイレベルの英語の授業を行ったりしている学校もあります。ネイティブスピーカーの先生も、公立中学校では予算削減の影響で人数が減少している一方で、私立中学校ではすべての学級の副担任として配置できる人数を常勤させている学校もあります。海外での語学研修や留学制度も充実しています。

また、私立中学校は中高一貫教育が受けられる学校が多いこともその理由です。公立中学校では高校入試を受験しなければなりません、大学入試まで時間をかけてゆっくり準備ができます。また、公立中学校や公立高等学校よりも授業時間数が多かったり、受験を意識した授業を行ったりして、塾に行かなくても受験対策ができる学校もあります。そして、大学付属校であれば、大学受験も必要ありません。受験勉強で苦勞をさせたくないという親の気持ちが表れています。

その他、公立中学校の場合、学校区によっては、平均学力が思わしくなかったり、雰囲気が悪かったりということもありますが、私立中学校は、入学試験がありますし、それぞれの校風を持っていますので、学力やバックグラウンドの似た生徒とともに学ぶことができるので安心です。また、施設や設備が老朽化していたり、冷暖房も完備していなかったりする公立中学校に比べて充実しています。また、アメリカンフットボール、ラクロス、オーケストラなど、公立中学校にはあまりないクラブがあり、帰国後も続けられます。

私立中学校は経済的な負担はありますが、それを超える魅力があるともいえるでしょう。

執筆者：丹羽 肇人（名古屋国際中学校・高等学校 アドミッションオフィサー 北米地域担当）

河合塾での指導経験を経て米国では CA・NY・NJ 州の補習校・学習塾にて指導。現在はデトロイトりんご会補習授業校講師。代表を務める「米日教育交流協議会」では、日本語・日本文化体験学習「サマーキャンプ in ぎふ」を実施。他に、河合塾北米事務所アドバイザー、文京学院大学女子中学校高等学校 北米事務所アドバイザー。

お問い合わせ先：E-mail nihs@ujeec.org

Phone & Fax 855-669-9300(名古屋国際)

